

第14回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会  
連携協働(IPW)推進委員会企画

## ワークショップ 新型コロナ禍のもとで思いと知恵と力を合わせる — パンデミック下の多職種連携 part2 —

日時 2021年11月14日(日) 12時45分から14時15分

新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大は、人と人のつながりに打撃を与え、社会的・経済的  
活動の抑制、感染に関わる人々への差別や排除と非寛容、保健・医療・福祉の脆弱性の顕在化、感染  
拡大防止と社会経済活動の両立など、困難な課題を生み出しました。

昨年度の第13回学術集会では、こうした状況での新しい実践の可能性について、障がい児の母、  
生活困窮者支援、地域福祉事業、在宅医療と高齢者虐待防止の現場からご報告いただき、職種・分野・  
領域をこえた連携と実践について検討しました。

今年度は、児童相談所が対応した相談件数が2020年度に前年度比で5.8%増加し初めて20万件を  
超えたと報道があった児童虐待に関わる医療現場、「同じ言葉で話し、同じ意味で受け止め、同じ行動  
をする」ことを目指した障害者の地域生活支援、多様な専門性を持つ学生と実務者を巻き込んだ多職種  
連携教育の3つの分野から報告をいただき、多職種連携のあり方を学び考えたいと思います。  
多くの皆様の積極的なご参加を心よりお待ちしております。

### 登壇者と発言タイトル

- ・小橋 孝介先生 「子ども虐待から見た子ども家庭福祉における多職種連携」  
(松戸市立総合医療センター小児科、千葉県出身、自治医科大学医学部2005年卒、医師)
- ・曾根 敬雄先生 「コロナ禍における障害者の地域生活支援  
— 障害者とその家族、支援者が共に立ち向かうために —」  
(特定非営利活動法人 任 代表理事、和歌山県出身・愛知県在住、日本福祉大学大学院医療・  
福祉マネジメント研究科2020年修了、社会福祉士)
- ・大村 裕佳子先生 「サードプレイス IPE—卒前から現任をゆるやかにつなぐ、  
楽しい出会いと学びの場—」  
(富山県出身、石川県立高松病院勤務、金沢大学大学院医薬保健学総合研究科  
保健学専攻博士後期課程1年、看護師・保健師)

終了後、ブレイクアウトルームで意見交換を行います。是非ご参加ください。

参加をご希望の方は、第14回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会への参加申し込みが必要です。  
申し込み方法、参加費用は以下のWebサイトの参加申し込みページをご覧ください。

<http://jaipe14th.umin.jp/index.html> (2021年9月27日8時開始)

その他お問い合わせは 藤井博之@hiro-fj@hh.ij4u.or.jp まで

